

# 「歴史」通り・地名・町の由来が知りたくなったら…歴史

## 風早町

藤堂高虎は、関ヶ原の戦いの戦功により20万石に増され、今治市内にあった国分山城に移り今治藩が立藩しました。しかし、国分山城は中世山城で城下町造営が不便なため、慶長7(1602)年、今張浦に近世城郭建設と翌年に城下町建設に着手、慶長9(1604)年、現在の今治市街となる城と城下町が完成しました。新しい城下町を作るにあたり、高虎の領地であり、大洲藩領であった風早郡(現在の松山市・旧北条)の商人の人々が今治の城下町に多く移り住んだことから、風早町という名前がついたそうです。

## 川岸端

藤堂高虎築城による総張りは、大航海時代に対応した西洋的な街のデザインを取り入れていました。お城・港・城下町が三位一体となる今治を創ろうとした。港から出入りする事の出来る、一番外の埠を商人に解放しました。これは日本ではなかったことで、ここ川岸端には間屋が並び、金星川(昔は17間(約31m)幅ありました)をはしけで登っていたそうです。

## 今治電信発祥の地

辰之口の電信分局の建物は西洋型2階建てのモダンなもので、局にはモールス電信機が備えられていました。電報の取り扱いは明治27(1894)年で発行部数11,857通と愛媛県の13.2パーセントを占めています。当時の職員は技手、技術員などが置かれ、午前8時に出勤して局に泊まり、翌日の午前8時に退局する交代制となっていました。43(1910)年には電話通話事務を開始しますが、昭和4(1929)年に局舎を広小路へ移転し、辰之口での歴史に幕を閉じます。

## 辰之口

当時あった辰之口門は乗禅寺(延喜の観音さん)に移築されています。

じょうぜんじ

「慈照門」此の門は、慶長年間(旧今治藩後援城辰之口)の太田(通称、辰之口巻ノ門)に建てられていたもので、武家専用の通門として明治初年まで使用していたが、慶長年間の際、片山源三郎氏に引き継がれていたものである。かねてより乗禅寺では山門(中門)建立の発願があり、当時、池内忠雄氏善行堂人堂守の寄進によって、この由緒ある門を慈照門と名づけて再現したものである。



昭和四十六年一月十七日 乗禅寺

## 金星町

明治以降、外堀を埋め立てて出来ました。明治7年(1874年)12月9日に金星の日面通過という現象があり、全国的に話題となったことがあるが、川の埋め立てはその頃ではないかと言われています。金星川には途次、木製の石橋が架けられました。その第1号は金星橋で、矢野房太氏の寄贈によってつくられました。庶民が手軽に楽しめる居酒屋やおでん屋、食堂があり、のちにはカフェが林立した。今治市中心街の発展に大いに寄与した町です。

## どんどび

今治城の外堀で、蒼社川の改修で有名な河上空固が設計、設置した水門は、外堀の水位を調整するため作られました。今治市街のほずれという感心でしたが、この地点が玉川、菊間、松山、同楽街道への出発点、鉄道開通までは乗り合い馬車のターミナルでした。このようなことから、水門としての「どんどび」は地名として語り継がれました。月心の植門はほとんど使われることがなく、平成12年に取り除かれ、記念碑が建てられています。



不思議・秘密・知りたくなると

# いってこようわい いまはる



## 街を楽しんで見るにはどうする？

① まず『面白い』と思うものを探してみました。そして何故『面白い』と思うのか考えてみました。



② 街の人に話を聞いてみました。商店街周辺は…、『面白さの宝庫』、『店主の話は面白い』、『商店街には歴史がいっぱい』と、わかった。



③ どんなまっぶにするか楽しさが伝わるのか考えました。

制作・発行：ICPC協議会

〒794-0015 愛媛県今治市常盤町2-3-4  
今治シビックプライドセンター事務局 TEL・FAX 0898-32-5126

協力：今治商店街協同組合

〈ホームページURL <http://www.icpc-imabari.jp>〉

発行年月日：平成23年3月